

CWAJ/VVI Newsletter 2020 年秋号

目次

1. ごあいさつ
2. 2020 年度 CWAJ 奨学生のご紹介
3. 2021 年度 CWAJ 視覚障害学生奨学金のお知らせ
4. ECG (English Conversation Gathering = 英会話の集い)のご報告
5. 現代版画展と HOA(Hands-on Art)に関するお知らせ
6. 編集後記

CWAJ = College Women's Association of Japan

ECG = English Conversation Gathering (英会話の集い)

FRS = Fukushima Relief Scholarship (福島支援奨学金)

HOA = Hands-on Art

NJG = Non-Japanese Graduate (外国人留学生大学院女子奨学金)

SA = Study Abroad (海外留学大学院女子奨学金)

SVI = Scholarship for the Visually Impaired (視覚障害学生奨学金)

VVI = Volunteers for the Visually Impaired (視覚障がい者との交流の会)

1. ごあいさつ

皆さんこんにちは。この数ヶ月、社会全体で今までにない生活・働き方を求められるようになりましてね。皆さんそれぞれに工夫され、元気でお過ごしになっていることを願っています。私は家でパソコン操作をする時間がとてもとても増えました。昔はダイニングテーブルで作業していたのですが、長時間になるとそれではかなり肩が凝りますので、このたび新しくパソコンデスクと椅子を購入しました！それように作られている物はやはり快適さが違いますね。また新しい物が生活に加わると、少し気分も変わって、とてもよいなあと思っています。さて今回は4つの記事をお届けいたします。ECGのご報告は、CWAJメンバーによる日英両方のレポートも掲載していますので、ぜひお楽しみ下さい。

尚、本 Newsletter は下記の CWAJ ウェブサイトからもお読み頂けます。

<https://cwaj.org/jp/education/volunteers-for-visually-impaired/>

2. 2020 年度 CWAJ 奨学生のご紹介

2020 年度は、合計 9 名の学生に奨学金が授与されました。新型コロナウイルスの影響による外出自粛状況の中行われた奨学生お披露目会の様子と、各奨学生のご紹介を、CWAJ 奨学金委員 渡邊由香 (わたなべ ゆか) と吉村啓子 (よしむら けいこ) よりお届けいたし

ます。

~~~~~

## 2020 年度 CWAJ 奨学生のご紹介

2020 年 5 月 13 日、CWAJ は「3 密回避」と「STAY HOME」を厳守して、オンラインの ZOOM で今年の CWAJ 奨学生を公式紹介しました。5 月の「CWAJ 新奨学生お披露目会」は、例年でしたら東京アメリカンクラブで開催しますが、新型コロナウイルス肺炎がまだまだ猛威をふるう東京では昼食会は開けません。でも、外出しなくても、ネット環境さえあればどこからでも参加できるインターネット会合の手軽さは、日本国内のみならず海外からも多くのメンバーや友人、更に各分野で活躍中の CWAJ 歴代の奨学生からのアクセスをうながし、プレス関係者も含めて総勢 180 人が笑顔でつながるしあわせな時間を共有しました。

本年度の CWAJ 奨学生は 9 名。海外に留学する日本人女子大学院生 (SA) 2 名、日本で学ぶ外国人女子大学院生 (NJG) 2 名、福島県立医科大学で看護学を学ぶ大学生 (FRS) 1 名、日本の大学・大学院で学ぶ視覚障害を持つ学生 (SVI) 2 名に加えて、創立 70 周年記念海外留学大学院女子奨学金 (SA) 2 名が 2 年目の奨学金を授与されています。VVI Newsletter では、まず CWAJ-SVI 奨学生 2 名をご紹介します。

杉浦有紀 (すぎうら ゆうき) さんは、金城学院大学人間科学部現代子ども学科の 4 年生で、教育学を専攻しながら小学校教師を目指しています。杉浦さんは、小・中学校時代、普通学級に在籍し、視覚障害を持つ者として友人とどう関わるかに悩んできました。杉浦さんの場合は障害でしたが、小学校には他にも国籍や言語などが人と違うことによって生きづらさを感じる子どもたちがいます。そのような子どもたちに、杉浦さん自身の特性を生かした授業を展開してみせることで、『みんな違ってみんないい』と伝えたいそうです。そして、子どもたち一人一人の特性を生かす活動を積み重ねることで、互いを尊重し認め合える子どもたちを育てたいそうです。

藤本昌宏 (ふじもと まさひろ) さんは、立教大学文学部文学科英米文学専修の 4 年生で、現代英語の英文法の特徴を研究しています。さらに、その研究をすることで、日本での英語教育の可能性や問題点について考察しています。生まれつき全く目が見えない藤本さんにとって、言葉とは自分と世界をつなぐ重要な情報源でした。藤本さんは、小さい頃から英語を学んだことで、見える世界が広がった、と感じています。「言葉」とは、人間が生まれてから死ぬまで、人生を通して持つことができるかけがえのないもので、すべての人が楽しく、そして平等に言葉を学び、言葉から得られる多くのものを獲得し続けられる環境を作る役割を果たしていきたい、と考えています。

他部門の奨学生は、下記の通りです。

アブシャンマーラー ノールさんはパレスティナ出身で、マレーシア国際イスラム大学政治学科を卒業後、九州大学大学院国際協力・安全構築で修士号を修得、現在は同大学大学院地球社会統合科学府博士課程に在籍して、アラブの女性を取り巻く複雑で多様な文化や生活環境を念頭に、性別、地域などの様々な力の関係性を分析しています。

アラバジエバ ポリーナさんはブルガリア共和国出身で、オランダのロッテルダムビジネス大学卒業後、上智大学大学院グローバル社会研究科修士課程に在籍し、発展途上国での食の安全と日本など先進国における健康食品の流通強化について研究しています。また、食の将来を見据えて植物性食品に注目し、植物に関する勉強を始めました。

川端 佐代子（かわばた さよこ）さんは、昭和大学医療短期大学作業療法学科、文京学院大学保健医療科学研究科修士課程を卒業。作業療法の専門家で、障害のある子どもの発達を促す「遊び」という作業に興味を持っています。アメリカのノースキャロライナ大学チャペルヒル校 作業科学学科博士課程に留学し、将来はアジアの国々における作業療法・作業科学の発展に貢献したいと考えています。

牛尾 紗世（うしお さよ）さんは、東京大学教養学部教養学科総合社会科学分科国際関係論コースを卒業、イギリスのキングスカレッジロンドン社会科学・公共政策学部国際子ども保護修士課程に進み、虐待や搾取、暴力から子どもたちを守るための保護システムの構築方法を探ります。理論を学びつつ子どもたちを支援する活動を続けることで、子どもたちを守る社会の形成に貢献したいと考えています。

山口 愛由美（やまぐち あゆみ）さんは、福島県立医科大学看護学部看護学科 4 年生で、救急医療や集中治療の現場で不安や焦りの中で待機する家族を目にして以来、患者の家族に何かしてあげられることはないか、と考え続けています。また、経験を積み上げ、いつかは緊急医療の最前線で命をつなぐフライトナースになりたい、と思っています。

CWAJ 創立 70 周年記念海外留学大学院女子奨学生の左近喜音（さこん しお）さんは、アメリカのペンシルバニア州立大学物理学科博士課程で、椎間優子（しいま ゆうこ）さんは、イギリスのブライトンアンドサセックス医科大学医学研究修士課程で、研究を続けています。アメリカでもイギリスでも新型コロナウイルス肺炎の蔓延でキャンパスは閉鎖され、多くの留学生が帰国しましたが、おふたりは現地に残り、オンラインに移行した授業を受け、ソーシャルメディアを使って先生やメンター、学生たちとコンタクトをとっています。「今できることを最大限にやりきって将来につなげたい」、とメッセージを送っ

てくれました。

CWAJ 奨学金委員 渡邊由香、吉村啓子

~~~~~

3. 2021 年度 CWAJ 視覚障害学生奨学金のお知らせ

CWAJ では 2021 年度も下記のように奨学生を募集します。

- ・視覚障害学生海外留学奨学金 1 名 300 万円
(過去に CWAJ 視覚障害学生奨学金を受けられた方でも応募できます)
- ・視覚障害学生奨学金 2 名 各 150 万円

詳細・募集要項などは CWAJ ウェブサイト <http://cwaj.org/jp> に掲載していますので、ぜひお読みください。応募をお待ちしております。

質問などありましたら、scholarship@cwaj.org までお問い合わせください。

CWAJ 奨学金委員会

4. ECG (English Conversation Gathering)のご報告

皆さん、オンラインイベントに参加されたことはありますか？私はこの春以降、仕事やプライベートのイベント参加など、オンラインの用事がとても増えました。はじめは音質が安定しなかったり、なんだか違和感があったりということもありましたが、数をこなしているうちに参加のこつも分かるようになり、なかなか快適なものです。なんと言っても家から参加できるというのは、猛暑や雨の時にとても便利です。今までは直接皆さんとお会いして開催していた ECG ですが、それが難しくなった昨今、この集いでも新しい方法での開催にこぎつけました！最近いろいろなところで使用されている ZOOM を用いて、ヴァーチャル ECG を開催しています。すでに 5 月と 8 月の 2 回実施し、多くの方々にご参加をいただきました。参加していただく方には事前に参加のための URL をお送りしていますので、当日皆さんはそちらをクリックしていただくだけで、まるで対面で話しているかのような対話ができます（初めて ZOOM を使用する際には、事前の設定が必要ですが、それもけしてややこしいものではありません。スクリーンリーダーで操作可能です。音質は各自のネットアクセスの品質などによって違いがあります。）

ヴァーチャル ECG は、毎回テーマ（5 月は趣味について、8 月は食べ物について）を決めて行っています。セッションは、CWAJ メンバーによるプレゼンテーションの後、参加者の皆さんにも 2 分程度のスピーチをしていただき、その後テーマに沿ってフリーカンバセー

ションという流れです。開催に際して、「ヴァーチャル ECG では、ぜひなるべく多く会話したい」というご希望を多くいただいていた。大人数が一堂に会すると発言の機会が限られてしまいます。ご要望にお答えするために、ブレイクアウトルームという機能を使用して少人数でのカンパシーションの時間を設けています。皆さん直接集まる形式の会に参加すると、小グループに別れて話をすることがよくありますよね。それがヴァーチャルでもできてしまうのです。主催者側でグループ分けは操作しますので、皆さんはただそのまま待っていただいているだけで OK なのです。そしてホストによる操作後数秒で、そのグループに割り当てられた人だけが参加する小さなヴァーチャル会議室に入っているのです。直接集まったの会の場合、あーちょっと隣のグループにぎやかすぎるなあと言ったようなことがあります。ヴァーチャルでは完璧に独立したグループですので、まったく他のグループの声に煩わされるなんてことはありません。文字で読んでいただくだけでは、イメージしていただきづらいところもあるかもしれませんね。そういう方はぜひ1度ヴァーチャル ECG にご参加下さい。

今回は、記念すべき第1回の報告を、開催時に VVI Co-Chairs を務めていた Silvia Wilson (シルヴィア ウィルソン) と Yoko Moskowitz (ヨウコ モスコウイツ) によるレポートでお届けいたします。英語の後に日本語を記載しています。

~~~~~

On Saturday May 23, CWAJ hosted the first Virtual English Conversation Gathering. Originally, this was scheduled as an in-person event in April. However, the need for social distancing with the spread of COVID-19, forced the Volunteers for the Visually Impaired to reschedule this as an online Zoom meeting.

After much testing and trouble-shooting, a workable format was devised, consisting of full-group presentations and smaller breakout rooms for conversation. In order to make best use of Zoom, a maximum of 18 guests and six breakout room moderators was decided. Eighteen guests of varying English ability signed up and joined CWAJ moderators and observers to talk about hobbies or “what we are doing during the lockdown”.

Rie Yasuhara spoke about her passion for hiking, particularly as a way to get into nature and away from the city. As a blind hiker, she described how she can safely hike and enjoy the outdoors.

Silvia Wilson also spoke about hiking and preparing for emergencies during backpacking adventures and described what she carries in an emergency kit.

And Yoko Moskowitz shared how she is learning jazz piano, after being trained as a classical pianist for many years. She described the three main features of jazz that she is learning (chords, rhythm and improvisation) and she shared a musical clip of a renowned jazz pianist.

Guests and moderators were split into breakout rooms at two different times during the event, to talk about their hobbies and to chat with other guests. During my breakout rooms we talked about yoga, exercising in your living room while listening to TV programs, frustration with closed gyms and walking around the block (over and over), creating a YouTube channel about living in Japan as a foreigner, and hosting Zoom seminars with other visually impaired people all over the world. Another breakout room reported a congenial chat with, coincidentally, all participants having an interest in music, which created an immediate connection.

Guests asked questions and shared their experiences and had time to chat. Time passed fast, and several guests mentioned that they wished they had had more time to chat in the breakout rooms.

We hope to learn what worked and what can be improved, so we can offer this format more frequently, in order to make this available to those who could not participate this time. And we would love to have you join us at a future English Conversation Gathering, whether online or in person, post lockdown.

COVID-19 パンデミックのためソーシャルディスタンスが要請される中、4月に予定していた English Conversation Gathering (ECG) を止む無く変更せざるを得なくなり、バーチャル ECG の計画が持ち上がりました。5月23日には、CWAJ による初めての ECG が ZOOM を使って開催されました。

幾つかの技術的な問題を解決し、何とか参加者が使える形式を提供することができました。全員参加によるショートプレゼンテーションとブレイクアウトルームに分かれて少人数で行う会話形式を取り入れました。ZOOM の機能を最大限に利用するために、参加者を 18 名、CWAJ ボランティアによるモデレーターを 6 名に絞らせていただきました。

安原理恵 (やすはら りえ) は、情熱を傾けるハイキングについて、都市の喧噪を避けて自然に親しむ意義を語りました。視覚障害者として、安全にアウトドアスポーツを楽しむ方法について語りました。シルビア・ウィルソンもまた、ハイキングについて話しました。特に、バックパッキング中に遭遇する危険に対する準備や、持ち歩いているという緊急用キットについて説明しました。

モスクウイツ洋子は、長年クラシックピアノを習った後に習い始めたジャズピアノについて話しました。今、習っているジャズの基本 (コード、リズム、アドリブ) について触れ、最後に有名なジャズピアニストの曲を流しました。

ゲストとモデレーターは小グループに分かれ、自分自身の趣味について述べ、他のゲストともお互いの経験について話し合いました。シルビアのブレイクアウトルームでは、ヨガや室内でテレビの音を聴きながらのエクササイズ、近所の散歩、また外国人としての日本での生

活を You Tube に投稿などといった話題がでました。他のグループでは、偶然にも参加者全員が音楽に興味があり、和気あいあいとしながら会話が進みました。

ゲストからの質疑応答の時間を設けましたが、時間はあっという間に過ぎてしまいました。もっと時間が欲しいという要望が数人のゲストから寄せられました。初めてのバーチャル ECG ということで、反省点もあり、今後は問題点を改善していきたいと思っております。今回、参加できなかった人も利用できるように、こうした形式をもっと回数を増やして提供できるようにしたいと考えております。外出自粛規制が解かれた後の ECG では、バーチャルまたは直接、皆様とお会いできるのを楽しみにしています。

~~~~~

参加いただいた方々からは、「初めてのヴァーチャル ECG でとても緊張した」、「とても楽しかった」、「事前に ZOOM の操作を教えておいてもらえてよかった」、「みなさんと話せてとても楽しかった」などなど、多くの感想を頂きました！またフリーカンパシーションの時間配分や集合時間についてなど、いくつか運営に関するご意見もいただきました。いただいたご意見も参考にさせていただきつつ、また事前に CWAJ メンバーによるプレゼンテーションのSCRIPT をお送りして参加される皆さんに心の準備をしていただけるようにしたり、楽しく皆で合唱する時間を設けてみるなど、少しずつ工夫を重ねつつ開催しています。ZOOM も体験できるし英語も話せるし・・・次回開催が決定いたしましたら、担当よりご連絡をさせていただきますので、ぜひご参加下さい。

5. 現代版画展と HOA に関するお知らせ

毎年多くの方にご来場いただいております Hands-on Art ですが、新型コロナウイルスの蔓延を受け現代版画展が中止となりました。そのため、Hands-on Art も中止せざるをえなくなりました。そちらに関するお知らせを、現代版画展担当の吉田 篤子（よしだ あつこ）よりお届けいたします。

~~~~~

### 2020 CWAJ Open Print Art Gallery

今年の 64 回 CWAJ 現代版画展は、例年通り 3 月に作品を受け付けた後、新型コロナウイルスの感染拡大の影響で作業を続けることができなくなりました。版画展は来年に延期することになりましたが、応募作品をただお返すのは残念に思われ、また作品発表の機会の減った現況を鑑み、画像によるオンラインショーを開催することにしました。

2020CWAJ Open Print Art Gallery と名付けられた今年ならではの催しですが、例年のような審査員による選考はなく、応募した全ての作家に参加を呼びかけたところ、230 点余り

の作品の画像が集まりました。

オンラインショーのウェブサイトでは一画面に、12 作品ずつ展示されますが、1 作品ずつ  
うつつし出すこともできます。そこにはそれぞれの作品の情報が掲載され、作家の情報へもリ  
ンクしています。また、そこから購入手続きへと進むこともできます。

全て、手探りで進めています。新しい試みに一同はりきって取り組んでいます。

毎年お楽しみいただいているハンズ・オン・アートは残念ながら、今年は開催できませんが、  
音声による作品紹介のアイデアもでています。どうぞ開催期間中にウェブサイトをおた  
ずねになってみてください。

開催期間 プレビュー 10月9日から10月11日

一般公開 10月12日から10月31日

~~~~~

6. 編集後記

秋号を最後までお読みいただき、ありがとうございました。

この原稿を書いている今は 8 月中旬なのですが、全国で猛暑が続いています。みなさんに
このニュースレターが届くころには、少しでも過ごしやすくなっていることを願います。こ
の猛暑を理由に、私は日々せっせとアイスクリームを消費しています！最近は各種コンピ
ニやメーカーから日々新しい商品が沢山発売されていますが、私は、ついこどものころから
親しんでいるものに手が伸びることが多いです。そして食べながらそのアイスクリームに
まつわる昔のエピソードを思い出すのもまたとても楽しい時間になっています。みなさん
と直接お会いできる機会はしばらく先になってしまいそうですが、ぜひ皆さんお元気でお
過ごし下さいね。

ホームページ上でこのニュースレターをご覧いただいている方など、メールでのニュー
スレターの受け取りをご希望の場合には、下記にご連絡下さい。Newsletter に関するご感想
なども大歓迎です。

(連絡先)

VolunteersVI@cwaj.org

2020年8月吉日

Newsletter Editor (編集担当) : 安原理恵

Distributor (発送担当) : 本村理子 (もとむら みちこ)